

市原市



【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要						
	自治体名		市原市	担当部局名	保健福祉部 共生社会推進課	人口 267,226（人） 〈令和6年10月/住民基礎台帳〉
	自治体内連携	庁内連携部局（メイン）	保健福祉部共生社会推進課	庁内連携部局（メンバー）	市原市孤独・孤立対策地域協議会関係	
		連携内容	孤独・孤立対策関係事業の実施	連携内容	情報共有、ケース事例検討	

2.形成をめざす地方版連携PFの姿						
従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	❑令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始し包括的な相談支援体制やアウトリーチ支援体制を構築したが、支援機関との多機関協働や、社会参加の支援、地域づくりの支援において、取組の難しさがあった。 ❑令和4年度地方版孤独・孤立対策官民連携PF推進事業採択。伴走支援を受けながらPF体制整備について調査検討。 ❑孤独・孤立対策をきっかけに、福祉に留まらない多様なプレイヤーの参画を図るため、令和6年度に「市原市孤独・孤立対策地域協議会」及び「市原市孤独・孤立対策官民連携PF」を設置。		実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	❑孤独・孤立対策地域協議会の設置（初回5月） ❑PF会議の開催（11月予定） ❑地域福祉計画の改定作業（骨子まで）	
				最終的なゴール	社会課題をみえる化、共有し、解決に向けて共創する場 そのために以下の機能を実装 ❑孤独・孤立等の社会課題解決のための取組やノウハウの共有と意見交換 ❑孤独・孤立等の社会課題の解決に資するプロジェクトを提案し、会員等の自主的なプロジェクトを促進 ❑上記を目的とした多様な主体の交流・連携を図るためのネットワークを構築 ❑孤独・孤立等の社会課題の解決に係る施策検討、構成団体等へ支援の要請	

3.地方版連携PFの外部連携体制			4.PF連携による価値や工夫_考え方	
地方版連携PF 立ち上げ年度 令和6 年度	参画メンバー	・（関係会員）市が設置する他のPF又はネットワークのうち、孤独・孤立問題に関連があると見込まれるPF等に属する団体 ・（パートナー会員）孤独・孤立対策に関心が高く、PFの趣旨に賛同するNPO等	❑ PF会議と協議会を連続する一体のものとして設定 ➢ 孤独・孤立対策を、福祉以外の分野を取り込み、福祉分野との接点を増やす機会と捉える ➢ 協議会は、できるだけ、既存の資源を活用し、既存の会議体、既存のネットワークをベースに、機能を重ねた ➢ PFは、相談の中核を担う行政機関、民間の相談支援機関に、中間支援団体、NPO団体、民間事業者等の関係会員、パートナー会員を加えた形で、福祉分野に留まらない ➢ 多様な主体による取組の場を目指している ❑ 社会課題に対し、地域活動団体、企業、福祉事業者の数だけ困り事やアイデア、ノウハウがあるものと捉え、課題とアイデアの組み合わせによる連携や解決方法を生み出す仕組みとして、PFを介したアクセスの機会を増やす	
	選出・打診時の工夫	・福祉を超えた連携を実現するため、市民活動、地方創生、都市計画、生涯学習等の異分野に積極的に接触。担当部署で連携実績がある団体等に取組趣旨を説明したり、連携事業を持ちかけた。		
地域協議会 立ち上げ年度 令和6 年度	参画メンバー	・介護、障がい、子育て、困窮等の相談支援機関で構成する「市原市相談機関連絡会」をベースに、成年後見、消費生活、健康、自殺対策、地域連携の分野を加えて構成		
	選出・打診時の工夫	・庁内横断的な会議体で協議体のあり方や接点を整理・提示した上で、会議内で協力を要請		

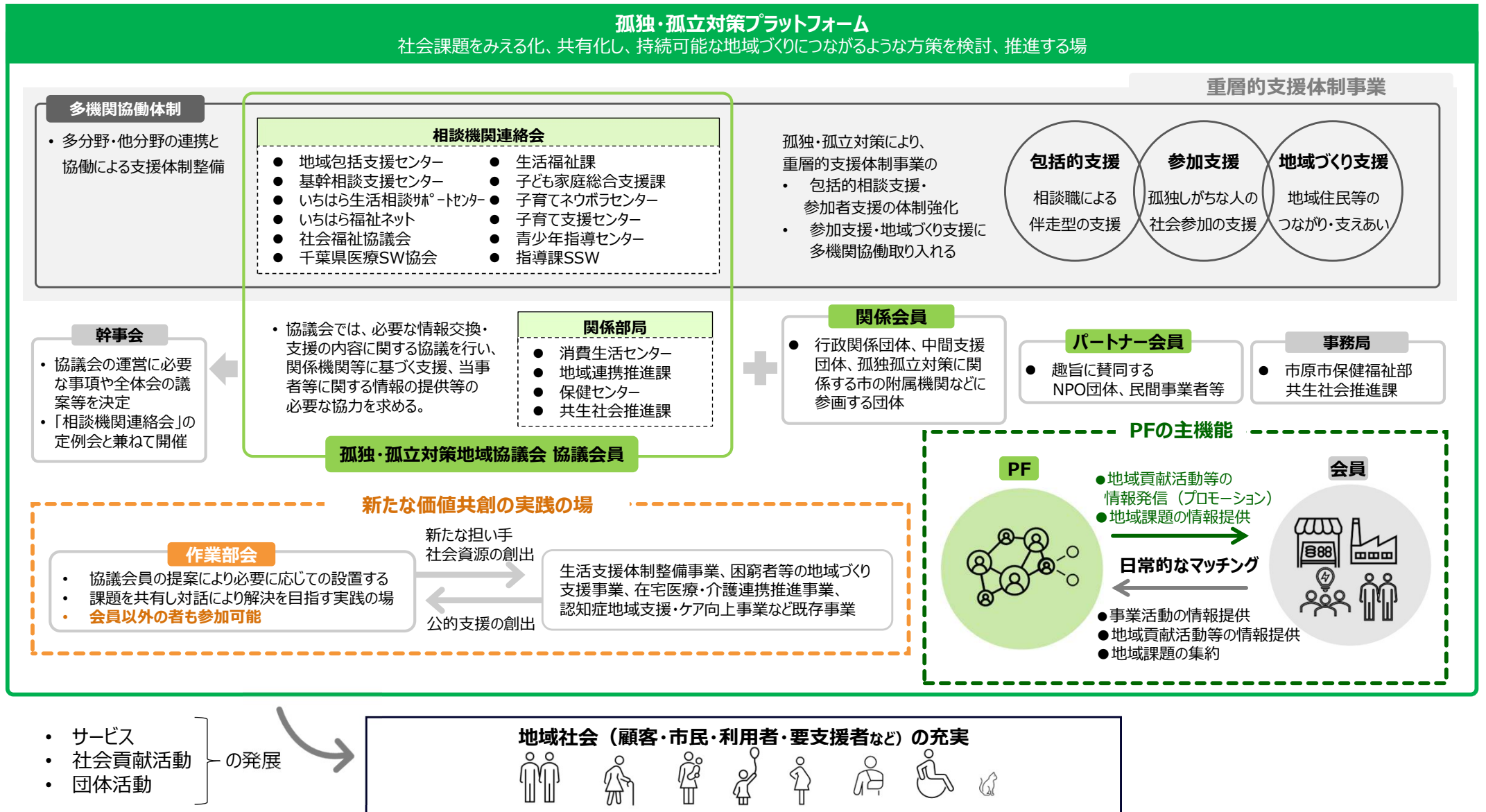
【B.連携PFイメージ】

凡例)

● 参加している組織

・ 会議体・体制などの説明

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧 (1/2)

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 支援団体等の負担増にならない配慮
- 実効性のある取組を持続するための仕組みの構築

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 福祉関係者 合同研修会	市原市社会福祉協議会が主催した「市原市地域福祉関係者合同研修会」の会場費を負担した	「居場所」に関する理解度の向上 効果検証項目 ▶参加者数506名（行政16名 民生・児童委員311名 地区社協・小域NW等179名） ▶約7割の民生児童委員の参加	✓ 9月：準備・実施	公益財団法人市原市文化振興財団 （13万円）
2 孤独・孤立 対策PF会議	【業務内容】 市民フォーラムを開催した（3時間） 【対象】 孤独・孤立対策PF会員 等 【形式】 対面90名規模、後日オンライン配信予定 【次第】 開会あいさつ（市原市長） 基調講演（順天堂大学 スポーツ健康科学部 松山 毅 氏） 市からの報告 ワークショップ、発表、講評 閉会あいさつ	- 孤独・孤立対策PFに関わる様々な団体メンバーの意識啓発 - 孤独・孤立対策に関する知識・情報の共有 - 孤独・孤立対策PFメンバー間での関係構築および連携強化 効果検証項目 ▶フォーラム参加者数69名 ▶孤独・孤立に関する理解度：深まった90.2% ▶連携PFへの参画意向：興味あり86.3% ▶フォーラムへの満足度98.0%	✓ 9月-：準備 ✓ 11月：実施	いちほろ市民活動協議会 （80万円）
3 ゆるサポ®研修	【業務内容】 地域のつながりづくりに係る研修を実施した（3時間） 【対象】 福祉の専門職 【形式】 対面20名規模 【講師】 淑徳大学 総合福祉学部 高梨 美代子氏	- 地域共生社会の理念や行動指針の啓発 効果検証項目 ▶参加者数17名 ▶研修全体の満足度：満足80.0% ▶研修の理解度：深まった86.6%	✓ 12月-：準備 ✓ 2月：実施	淑徳大学高梨氏 （3万円）

【C.試行的事業】_一覧 (2/2)

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 支援団体等の負担増にならない配慮
- 実効性のある取組を持続するための仕組みの構築

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
4 企画提案型研 修委託事業	【業務内容】孤独・孤立対策PF会議作業部会（コミュニティラボ）を実施した（2時間） 【対象】こども食堂運営団体、こども食堂支援企業 等 【形式】対面20名規模 【内容】 開会あいさつ WSの目的と流れの説明 シナリオとワークシートの説明 グループ討議 議論結果の共有と感想の共有 閉会	- 地域共生社会の理念や行動指針の啓発 - こども食堂の「課題、アイデア、意見を可視化する」 - こども食堂の課題解決方法について検討し、作業部会で見られた意見をこども未来キャラバンの実施内容に反映する	✓12月-：準備 ✓1月：実施	いちはら市民活動協議会 （市費：10万円） ※構成を事業内で検討
	【業務内容】こども未来キャラバンを実施する予定（5時間） 【形式】対面約500名規模 【内容】 こども食堂フェスティバル、防災協定締結式、消防服着用体験、NTT防災無線体験など	- 具体的な活動機会の創出 - こども食堂・ちいき食堂の認知普及 - 防災意識の向上		

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- PF会議作業部会の本格的な展開
- 重層的支援体制整備事業の新たな取り組み（オンライン合意形成システム、社会資源管理システム）との連携
- 改定地域福祉計画への事業反映

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 研修会やフォーラムは盛況で、参加者の孤独・孤立対策に係る関心も確認できた。
- 民間企業からの連携の提案があった。（協議中）
- SNSで発信したところ従来の広報とは異なる反応が得られた。
- 他自治体や各種団体の要望により説明を行った。

【C.試行的事業】_1. 福祉関係者研修会の開催

概要	- 名称：市原市地域福祉関係者合同研修会 - 日程：令和6年9月19日（木） - 会場：市原市市民会館 大ホール	ねらい	「居場所」に関する理解度の向上 - 本研修を契機として、市原市孤独・孤立対策PFへの多様な主体の参加を促進
工夫点	例年は民生委員児童委員協議会全体研修として開催されている場を活用し本研修を実施したことで、居場所に関わる多様な主体が幅広く参加	結果	- 参加者数506名（行政16名 民生・児童委員311名 地区社協・小域NW等179名） - 市内約7割の民生児童委員の参加

プログラム内容

- 開会あいさつ（市原市長）
- 基調講演「人と人、人と社会がつながる地域の居場所」（立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻 寿規 氏）
- 市の取り組み説明

▼講演内容

孤独・孤立対策推進法の概要

法律が成立した背景・目的を社会構造の変化を踏まえて解説。

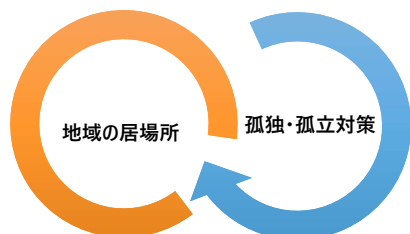
地域における居場所の役割

「まちづくり」と「福祉」の視点から、居場所機能を考える。（居場所の変遷）

居場所の実践事例

多様な居場所が地域にどのような効果をもたらしているか、対象を限定しない包摂性の高い実践について豊富な事例を用いて説明。

▼居場所づくりと孤独・孤立対策の取り組みが連動



▼地域福祉の実践者約500名が参加



取組の効果

- 孤独・孤立対策が社会の重要課題であることを幅広い関係者が認識し、それぞれの役割や機能を考える機会となった。
- 本研修会を契機に、多様な参加者の連携意識を醸成し、分野を超えた孤独・孤立対策PFの構築を目指す。

▼居場所に関わる多様な関係者が研修に参加



▼研修を通じて、市PFへの参加を促進

市原市孤独・孤立対策PF

- 福祉分野にとどまらない多様な主体が参画
- コンセプトは、「社会課題を見える化、共有化して、みんなで解決を目指す場」

【C.試行的事業】_2. 孤独・孤立対策PF会議の開催

概要

- 名称：社会のつながりと居場所を考えるフォーラム
- 日程：令和6年11月17日（日）13:00-16:30
- 会場：夢ホール

工夫点

- 幅広い分野に関わる福祉団体を巻き込み、展示品を募った。
- 参加者が自ら選択したテーマでテーブルワーク。ファシリテーター配置、ワークルール設定などの工夫で、円滑なワークを促した。
- 講演及びワークの様子を録画し、後日オンラインでの動画配信を行う。

ねらい

- 各分野における人と人とのつながりづくりに資する取り組み同士の連携を促す。
- 社会的なつながりづくりの重要性と、市原市の地域資源の多様性を市民、関係者等に広く周知し、気づきと変化を促す。

結果

- 来場者数：69名（一般53名、行政関係者16名）
- フォーラム全体満足度：大変満足45.1%、満足52.9%

プログラム内容

- 開会あいさつ（市原市長）
- 基調講演「孤独・孤立化する社会とつながりづくり」（順天堂大学スポーツ健康科学部 前任准教授 松山 毅 氏）
- 市の取組説明
- グループワーク 3つのテーマの選択制で意見交換

アンケート結果

- 当日配布アンケートの回収数：35
- インターネットによる回答数：16
- グループワーク参加者 67 名中 51 名からの回収（回収率 76.1%）
- 孤独孤立対策PFへの参画への関心度：興味あり86.3%

▼グループワークテーマ



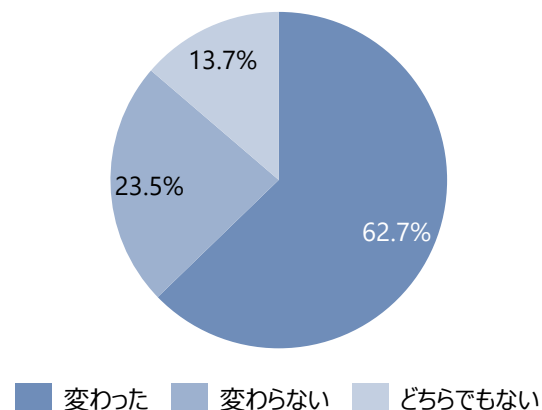
▼グループワークの様子



▼PF関係団体の紹介



▼本フォーラムに参加して、孤独・孤立対策についての意識や考えは変わったか



▼前問（左）の理由、またどう変化したか

- 市原市内にある関係団体の多さに驚きました。普段の会議はいつものメンバーという印象がありますが、新たなつながりができたことがとてもよかったと感じます。
- テーブルワークを通じて、立場を超えて一生活者としてアイデアを出し合うことができると感じました。
- 良い意味で（自分の意識や考えは）変わらない。でも、孤独や孤立について考えている人が多くいることに感銘しました。
- 狙い通り市内の団体のネットワーク構築につながった

【C.試行的事業】_3. ゆるサポ®研修の実施

「ゆるサポ」は高梨美代子氏の登録商標です。（商標登録6005977）

概要

- 名称：福祉の専門職のための 地域のつながり研修～ゆるサポ®～
- 日程：令和7年2月19日（水）13:30～16:30
- 会場：市原市市民会館 大会議室

工夫点

- 地域のつながりづくりの目的として「支援者支援」の視点を位置づけ、専門職の協力を求める。
- どのような支援の場面にも共通する、価値観・標準的な行動であって、認知症サポーター等の制度と屋上屋を架すことにならないよう留意する。

ねらい

- 「ゆるサポ®」をキーワードに、共生社会の実現に向けて地域にいる誰もが相手と自分を気にかかけ、できる範囲で支え合う、ゆるやかにつながる関係づくりの意識を地域共通の価値として普及を図る。

結果

- 相談支援機関の専門職など17人が参加し、講義とグループワークを通じて、地域で実践可能な具体的な行動を学んだ。

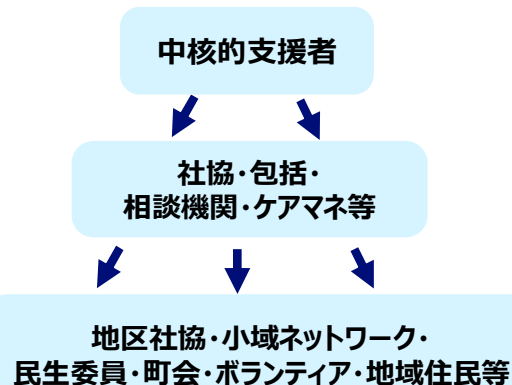
プログラム内容

- 開会あいさつ
- 基調講演「ゆるサポ®のすすめー支援体制を活かした支援ー」
- グループワーク「普段のかかわりから考えよう」
（講師：淑徳大学 総合福祉学部社会福祉学科 助教 高梨 美代子氏）

▼研修内容

地域のつながりを大切にする機運を醸成する「ゆるサポ®」の理念を学び、実践に活かしながら、周囲に伝達する。

▼地域共通の価値として理念を浸透



▼グループワークの様子



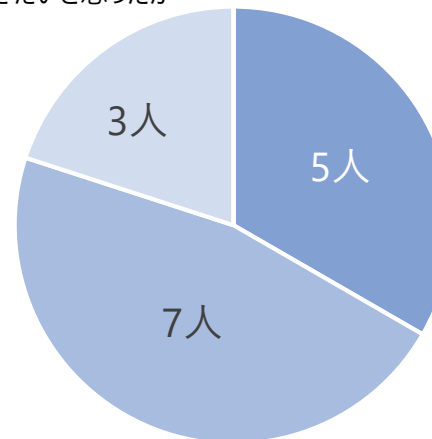
▼相談機関を中心にチラシを配布



アンケート

- 研修参加者17名中15名からの回収（回収率 88.2%）
- 研修全体を通じて満足と回答した割合：80.0%

▼研修に参加して、ゆるサポ®の理念を広めていきたいと思ったか



■ 思う ■ 少し思う ■ どちらでもない

▼研修体験後の感想

- 相手が大切にしていることや好きなこと、相手の現状を否定しない強さを、相談を受ける側に必要な能力と感じました。
- 専門職の立場以外の立場からの発想がなくなってしまう現実を痛感しました。
- 何ができるかを考えて行くためにも、今後可能な範囲で、研修に参加させていただきたいと思います。
- 今後もサポートできるシステムづくりを考えていきます。

工夫点

- ・ 名称：孤独・孤立対策PF会議作業部会（コミュニティラボ）
- ・ 日程：令和7年1月21日（火）10:00-12:00
- ・ 会場：いちばらウエルシアコミュニケーションセンター

- ・ 参加メンバーの多様性を確保した。
- ・ 事前のヒアリングによりペルソナ設定、カスタマージャーニーを作成し、短時間で課題検討プロセスを体験できるように配慮した。

ねらい

- 市原市の孤独・孤立対策PFのコンセプトは「社会課題を見える化、共有化して、みんなで解決を目指す場」。
- こども食堂の「課題、アイデア、意見を可視化する」を通じて課題解決方法について検討し、こども未来キャラバンの実施内容に反映する。

結果

- ・メンバー：18名（こども食堂運営団体、地域団体、民間企業、子育て支援団体、NPO団体、お寺、社協、相談機関、大学、医療関係、行政）
- ・満足度：大変満足37.5%、満足62.5%

プログラム内容

- 開会あいさつ
- WSの目的と流れの説明
- シナリオとワークシートの説明
- グループ討議
- 議論結果の共有と感想の共有
- 閉会

体験者の感想

- ・PF立ち上げにあたって、中心的に動いている方の話を聞けたので、解像度が上がりました。また、他団体の取り組みや普段の課題など垣間見えたので、実際のPFが動き出した際のイメージが湧きました。
- ・仕組みやねらいはよく理解できました
- ・こども食堂側の悩み、繋がりなどの悩みなど企業側から見えにくい部分が知れたこと、問題点を直接働いてる方々から聞いたこと。
- ・市や県、国の目指す姿の説明から、ペルソナを設定してディスカッションに繋げてくださった点がわかりやすい理由だと思います。またファシリテーターがとても上手だった為スムーズに理解できたのだと思います。
- ・こども食堂に関して、関わった事がなかったので、運営方法や困り事など知る事ができた。
- ・素晴らしい取り組みだと思います。
- ・今回とてもためになり、色々な方々の色々なやり方や悩みなど聞けたのでとても参考になりました。また参画したいです。
- ・自分たちでコンタクトを取るのには限界があるのでコミュニケーションの場としてもとても有意義でした。
- ・今回は普段の業務で関わることの少ないテーマだったので、学びが多くありました。今後も参加をしていければと感じました。
- ・今回のPF会議には将来性を感じました。今は新総合計画の見直し時期で他の部署でも同様な取り組みが進められています。PFは市の分野横断でプロボノで地域のあらゆる主体を巻き込んでいくことを切に希望します。
- ・様々な経験をお持ちの方と、課題について考える体験は、率直に面白かった。この先まだ見えないこともあるが、どのような方向に繋がっていくのが楽しみ。

▼グループワークの様子

活動前		活動後	
立ち上げ	こども食堂開設	初期	発展
		- 仕込み量の見込みがたない - 運営者の持ち出し負担 - スタッフのやりくりが大変 - 来てほしい人に情報回っているか不安 - 物を保管する場所に困る	- 利用者が増えて - 近所から苦情が - 物資を取り - 長期休暇 - 心配な
課題 スタッフ確保 事業計画・資金確保 安全衛生管理 開設準備 周知	課題 メニュー決定 食材調達 調理・食事提供 記録	課題 予約制を採用 研修会等を模索 補助金を検索 利用者をも誘致 SNSを活用(顧客向) ポスティング	課題 開業 開業
運営者の意向 ■ スタッフが集まるか不安 ■ 段取りどおり食事が作れるか、食中毒やアレルギーはないかな ■ 当面の資金はOKだけど続けていけるか不安 ■ どこに向かって周知していけばいいか	運営者の意向 ■ こどもが集まるか不安 ■ 好みにあうか不安 ■ 喜ぶ様子がみえない ■ 賑やかで楽しい場所になんないか	運営者の意向 ■ 食材が残ってもったいない ■ 誰かに相談すればいい？ ■ 急にスタッフが確保できない困る ■ 料理手続がわからない ■ 予約制にしたところでも来れない	運営者の意向 ■ 必要と供給が大変だ ■ 一人に負担が重 ■ 必要とする予算を簡単にアップ ■ 補助金受



【C.試行的事業】_5.企画提案型研修委託事業の実施（こども未来キャラバン）

概要

- ・ 名称：こども未来キャラバン
- ・ 日程：令和7年3月22日（土）10:00-15:00
- ・ 会場：いちほら子ども未来館（we ほーる）

工夫点

- ・ 講演で災害時にこども食堂と地域の人々でできることを考えることを促した。
- ・ 映像記録を行った。
- ・ 飲食出店では、親子が喜ぶものを商品とした。

ねらい

- ・ 地域のこども食堂の認知普及活動を目指すとともに、運営費の捻出など活動継続のための協力を仰ぐ一助とする。
- ・ 市原市、木更津市、袖ヶ浦市、君津市、富津市の隣接市間で防災協定を結ぶことにより今後の災害に備え、防災意識を高める。

結果

- ・ 来場人数：約800人（内 大人：300人、子ども：500人）

プログラム内容

- ・ いちほら子ども未来館 1F
 - ・ 10:00-15:00 飲食出店（屋外）、ワークショップ（屋内）開催



▲五市のこども食堂による
屋内ワークショップ

▼五市のこども食堂による
屋外飲食出店



プログラム内容

- ・ いちほら子ども未来館 3F
 - ・ 10:00-11:00 防災締結式・トークセッション
（講師：一般社団法人 四番隊 代表理事 伊藤 純氏）
 - ・ 12:00-15:00 企業PRブース

▼講演の様子



▼企業PRブース



【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 幅広い分野を巻き込める孤独・孤立PFの枠組みを活用し、関係者に丁寧な聞き取りを行ったことで、現場の課題に即した様々な試行的事業を実現した

